

ドライブシミュレーターを用いた運転支援

桔梗ヶ原病院

園原和樹

【抄録】

近年、医療機関における運転支援において、ドライブシミュレーター（以下DS）が用いられている。2014年に道路交通法が改正され、以降、医療機関における運転適性の評価の分野において発展を認めるが、運転再開の可能性を高めるリハビリテーション（以下運転リハビリテーション）は未だ足踏みの状態が続いている。

DSの意義は、（1）患者の運転適性を評価すること、（2）運転リハビリテーションのための訓練機器となること、（3）高次脳機能障害の改善のためのリハビリテーション課題となることがある。DSを用いた運転支援の特徴は、（A）机上課題では評価することのできない運転適性の評価ができること、（B）長い時間をかけて繰り返し評価を行えること、（C）安全に自動車事故を起こせることがある。DSを用いた運転支援の課題は、（a）DSを繰り返すことで走行コースや危険場面を覚えてしまうこと、（b）DSの活用方法が確立していないこと、（c）運転リハビリテーションの方法が確立していないことがある。当院ではこれら課題に対応し、運転再開を希望する患者にDSを用いた運転リハビリテーションを実施している。

以上の点を踏まえ、当日はDSを用いた運転支援に焦点を当て、（Ⅰ）脳血管障害者の運転支援、（Ⅱ）高次脳機能障害者の運転支援、（Ⅲ）DSを用いた運転支援、（Ⅳ）運転リハビリテーションについての解説を行う。